

まごころ周辺の温泉ドライブ

まごころ病院院長 及川雄悦

まごころ病院は奥羽山脈のふもとにあり、周囲には温泉がたくさんある。近いのは夢の湯。銭湯みたいな名前だがまちがいでなく温泉。栗駒ゴルフクラブに隣接し、まごころ病院からほど近い我が家からクルマで8分で行ける。加温なし、加水なし、循環もなしの源泉100%！かけ流しは豪快だが、お湯は繊細。ナトリウムイオン泉 ナトリウム塩化物泉で細かいアワアワが肌に優しい。湯温も適度で長い時間浸ってられる。三男がサッカーで傷んだ際は夢の湯で癒すのが通例だった。

ひめかゆ温泉。いろいろとあって、私はこの株主だ。無料入浴券が年間20枚もらえる。かつては町の第三セクター的な施設だった。支配人さんから『・・・ひめかゆ温泉なんとかしてけらっしゃや・・・』と頼まれ、とりあえず日本温泉気候物理医学会に入った。大きな声では言えないが、とても楽しみな学会だ。397号を山に向かいダークダックスが銀色の道と呼んだらしい10km続く桜の回廊を抜けるとそこがひめかゆ。ここのとろりとした湯の炭酸水素イオンに体を包まれるとかならず『はあ〜』と声が漏れる。精鋭がひめかゆ発展に命をかけており、期待二重丸！イベントの料理も凄い！！



しづか亭。平泉中尊寺の奥座敷。平泉から中尊寺を抜けてたどり着くなら趣もあるのだろうが、我が家から衣川の山あいをクネクネ行くとすぐ着く。わりとあっけない佇まい、と感じる。日帰り入浴にしづか亭自慢のそばランチがつく。というよりそばを食べないと温泉には入れない。ここのそばのコシの強さはヘビー級。誰にも知られずにそーっととおきたいようなちっちゃな温泉だ。（ここまでが6月号本号）

（※ここから本号の続き）

30～40分ドライブすると、一関、北上方面までいける。山麓伝いに北上すると南花巻温泉郷。有名どころがずらりと並ぶ。アルカリ単純泉が多くみんな美人の湯だ。志戸平温泉は会員登録するとずいぶん安い。何人か同伴できて会員料金で済む。孫子（まごこ）が一緒のときはここの一択だ。男湯と女湯が日替わりになるが、趣がずいぶん異なる。どちらにも浴槽がたくさん。豊沢川のせせらぎが耳に心地よい溪流露天風呂は男子は偶数日。大沢温泉の山水の湯は日帰り入浴1100円。とても高い。しかも11時から14時まで。落ち着いた湯舟をほぼ独占できることが多いので値段に見合う価値はあると信じていること。優香園の宮大工建築、これはすごい。建物が、各部屋が芸術だ。愛隣館のお出迎えは申し訳ないほどだ、こちらは日帰り入浴なのに。いつもいつも和服のお姉さんが愛想よく迎えてくれるので宿泊客と間違えているわけではないと思う。

南花巻温泉郷に向かうドライブは快適だ。豪快な直線道路に細かくカーブする山道がブレンドされ飽きない。100mほど狭い区域があり画竜点睛を欠く感もあったが、昨年改修され全線快通！

一関方面に向かうとかみくらと真湯温泉がある。岩手・宮城内陸地震の際、橋の舗装面がベロンと垂れ下がったあたりだ。ちなみに今もベロンは保存されている。かみくらには宿泊した。玄関の一枚板には圧倒されるが、建物と温泉はつつましい。しかし食事の際の接客は驚くほど上質かつフレンドリー。真湯温泉の露天風呂は絶品。カルシウム・ナトリウム—硫酸塩泉で中性、茶色の濁り湯。これでもかというほど大量の木材が投入された屋根と壁、溪流を挟んだ雑木を愛でながらのひとは何ものにも代えがたい。人気の湯なので訪れる曜日、時間帯は考慮すべし。

我が家からかみくら真湯方面へのルートは3

つ。衣川村内を横断し342号線に入る二つの道はどちらもたのしい。なだらかな丘陵地を這いながら快適なコーナリングをなんともなんとも味わえる。念のため断っておきますが、私はスピード狂などではなく制限速度をちゃんと遵守する公務員です。で、もう一つのルートは奥州湖から342号のベロン地点に入るルート。銀色の道からまるで軽井沢みたいな場所を抜けると奥州湖。おかしスーパージェッターに出てきたような空中ハイウェイが奥州湖北側に敷かれ、奥州湖を半周して南に折れる。このルートはホントにおすすだ。空中ハイウェイは巨大遊園地でゴーカートに乗っているような気分、ほとんど夢のような道路だ。民家などなく人っ気もなく、獣が横切ったこともない(いまのところ)。おまけに奥州湖の絶景が見下ろせ、間もなく湖面すれすれをかすめ湖を横断するこれまたスーパージェッター的な橋。この橋を渡りきると342号まで奥羽山中を縦断スラローム。誰が通るんだろうという場所に驚くほど高規格な道路が延びる。適度にアップダウンする見通しのいいストレート、多彩なRをもつ左右のコーナー。ハ幡平パノラマラインと樹海ラインを2ランクアップしたような感じといえればお分かりいただけるだろうか。繰り返しますが、私は法令順守をモットーとしゴールド免許を保持しています。で、ベロン地点で342号に合流しばらく間の快適ドライブが楽しめます。

さて、さらに30分余裕があるなら、かみくら真湯から須川へ。豪壮なブナ林を抜けると、箱根マラソン5区のような山登り。一車線分しかない狭い個所や超急カーブが各所にあり難度は高い。大型観光バスの後に付こうものなら所要時間は3倍は見たほうがよい。しかし新緑も紅葉も絶景が堪能できるので、ノロノロでも楽しめます。さて、山頂にたどり着くと岩手県側に須川温泉、秋田側に栗駒山荘。ほとんどくっついており、どっちかに泊まるともう一方に無料で入浴できるよう。どちらも白濁した強酸性のみょうばん緑ばん泉。温泉の湧出量は毎分6000ℓだそうで、須川温泉の横をザワザワ流れている。須川温泉の露天風呂は巨大で、空に近い。運が良いとフロントの前でじゃんけん大会が開かれる。係りのおじさんに勝つと半額の入

浴券がもらえる。すごいのは20回くらいじゃんけんするのだが、勝っただけなんぼでも半額券がもらえる。もらったその日から使え、しばらく有効。一方の栗駒山荘はすこしリッチだ。宿泊の予約はなかなか取れないのだという。露天風呂からはまさに絶景が広がる。晴れていれば鳥海山が望め秋田全県が見えるような気分だ。曇っていただいで、あっちに日本海が広がりその向こうは満州のはずだ、と見えないぶん想像が広がる。ここの売店で、細は必ず何か買う。この前はスチューベンひと箱。1200円は安いんじゃないかと私でも思った。

さらに時間があるなら、秋田側に下りる。こちら側は快適な道路だ。須川湖は目立たないがぜひ寄ったほうが良い。まもなく小安峡。ここも必見。もう少し下ると川原毛地獄、横に入って泥湯温泉などというマニアックなところもある。秋田側の紹介にはいまひとつトリキが入らないが、楽しいところがいっぱいです。

半日かそこらあれば、びっくりするほど快適なドライブと各種温泉が堪能できるというお話でしたー。

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和4年6月29日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町 3-1 TEL0197-25-3833
※ 奥州市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。